広島に行って考えたこと

多摩市立多摩永山中学校　１年　稲垣　鞠奈

突然ですが絵本の「スイミー」を知っていますか？
スイミーは小さな魚が何匹も集まって大きな敵を追い払う物語です。
私は平和運動はスイミーのようだと考えています。一人一人の声はとても小さい、
けれどその声が何百、何千にもなればとても力のあるものになる。
そして「not 世界平和」を打ち砕くことが出来ると考えています。
私はその一人になりたいと思っています。これはひろしま子ども平和のつどいで知った「私たちは微力だけど無力じゃない」という言葉にもつながるのではないでしょうか。

一日目、平和公園見学で波多野愛子さんに平和公園のモニュメントについて説明をしていただいた時、本の中では知ることのできなかったそれぞれの意味を教えていただきました。その時、特に私は「平和の鐘」のモニュメントの意味に心打たれました。「鐘をつくところに原子力のマークがあり、原水爆を打ち砕くということ」「国境のない世界地図があり、世界は一つだという意味が込められていること」「心を映し出す鏡があること」そして「原水爆を打ち砕く」これは日本の目標であり、世界の目標。平和の鐘だけではなく、そのほかのモニュメントにもそれぞれ意味があり、「意味のないものなんてないんだな」ととてもすてきだと感じました。

袋町小学校ではヒロシマの被爆者の悲惨な現状を知り、１５トンもの医薬品を入手し治療に当たった「ジュノー博士」の資料を見ました。それを見て私は、「戦争は人の愚かさとやさしさが一気に見える時だな」と思いました。

本川小学校に行って、「三八歩兵銃」を見たときとても驚きました。
今までたくさんの時が止まったような展示物を見てきました。
けれどもこの「三八歩兵銃」は今まで見てきた展示物とは異なり本体から剥がれ落ちたかけらが周りに散らばっていました。

私は、「時は止まっているように見えるが進んでいる。人々の記憶は進み歩兵銃の様に風化する」と感じ取り「銃を展示し人々に戦争の恐ろしさを知ってもらっているのと同じように、私たちも戦争の恐ろしさを後世に伝えていかなければならない」と思いました。

まだまだ書き足りないほどのたくさんの貴重な体験をして私は「多摩市子ども被爆地派遣事業」に参加し、ヒロシマに行って本当によかったと思っています。そしてそれを、活動が始まったときから今この作文を書いているときも感じています。

この先、私は貴重な体験を自分だけのものにするのではなく、多くの人に言葉や文を通して伝えていきたいです。